

温雅な俳人

しの ほん おん てい

篠原温亭

Shinohara Ontei



明治5年(1872)～大正15年(1926)

宇土市生まれ

作家、俳人

京都本願寺の文学寮に学んだのち、上京。徳富蘇峰^{とくとみそほう}が創刊した『国民新聞』社員となり、作品を発表。地味だが民友社^{ちゅうけん}の中堅として確かな地歩を占めた。小説に「しらぬ火」「二年越^{にねんごし}」などがあり、紀行文も多い。俳句は明治30年(1897)頃から始め、大正11年(1922)、俳誌『土上』^{どじょう}を主宰。平明だが、滋味^{じみ}のある句を残している。国民新聞勸業部では、ダリアやメロンなどの栽培^{さいばい}、普及^{とくしか}に努めた篤志家でもあった。